

平成 20 年度	施設名（愛称名）	下田市立大賀茂保育所	番号	5 5
----------	----------	------------	----	-----

平成 20 年度

# 施設評価調書

施設の名称.....大 賀 茂 保 育 所

所管担当課.....教育委員会学校教育課

平成 20 年 7 月

平成 20 年度	施設名（愛称名）	下田市立大賀茂保育所	番号	5 5
----------	----------	------------	----	-----

## 施設の概要

1 施設名 (愛称名)	下田市立大賀茂保育所		2 担当課 担当係	学校教育課 こども育成係		
3 所在地	下田市大賀茂 530 番地		4 設置年月	昭和 53 年 1 月 日		
5 総合計画の 位置付け	安心と安全づくり		ともに生きる福祉のまちづくり		児童福祉	
	施 策 体 系		保育サービスの充実		保育システムの多様化・弾力化の推進	
	主 要 事 業		保育所整備事業		保育所の施設・設備の充実	
6 設置目的	日々保護者の委託を受けて、保育に欠ける（働いていたり、病気などの理由により）乳児又は幼児を保育する。					
7 設置根拠	下田市立保育所条例					
8 施設の概要	施設の概要	敷地面積 1,560.88 m <sup>2</sup>				
		建物鉄骨 279.91 m <sup>2</sup>				
	実施事業 の概要	認可保育所 定員 50 人				
		保育所における保育 0 歳児 0 人 1 歳児 0 人 2 歳児 17 人 3 歳児 14 人 4 歳児 13 人 5 歳児 11 人 合計 55 人				
	料金体系	料金区分	下田市地域保育所保育料徴収要綱による			
		主な料金	平成 18 年度より一律月額 9,800 円（給食無） （h17 年度：8,200 円/月）			
		減免内容	第5条 災害，その他特別の事由により市長が止むを得ないと認めるときは，扶養義務者の申請により第2条に定める保育料の全部または一部を減免することができる。			
		利用料金制度	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
	施設運営 方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接運営				
		指定管理者制度	指定管理者			
一部委託		委託内容				
直接従事職員	下田市職員数（平成 20 年 4 月 1 日現在） 保育士 4 名 臨時保 4 名 計 8 名 地域保育所により給食調理なし					
9 市内の 類似施設	下田市所有	公立 6				
	民間所有	私立 2				

平成 20 年度	施設名（愛称名）	下田市立大賀茂保育所	番号	5 5
----------	----------	------------	----	-----

10 取得費等の情報 (単位：円)	取得費及び財源内訳		平成 19 年度末残高			(備考) 減価償却の方法 ・ 定額法 ・ 残存価格 1 円 ・ 新設翌年度から償却 ・ 耐用年数 27 年 ・ 昭和 53 年建築 ・ 耐用年数経過
	土地取得費	個人からの貸借	土地残高			
	建物取得費	28,085,000	建物減価償却後残高		1	
	財源内訳					
	国・県支出金					
	市債	22,200,000	市債残高		0	
	一般財源 寄附金等					
物品( * 万円以上)			物品減価償却後残高			
11 年間経費等推移 (単位：円)	区 分		H17 年度決算	H18 年度決算	H19 年度決算	H20 年度予算
	収 入	保育料	3,874,756	4,823,478	5,745,231	6,528,261
		補助金	2,067,324	1,901,965	2,123,077	2,277,717
		収 入 合 計	5,942,080	6,725,443	7,868,308	8,805,978
	支 出	1 節 報酬	91,459	93,736	104,967	118,967
		2 節 給料	18,782,413	16,252,568	15,532,484	18,170,326
		3 節 職員手当等	7,739,816	7,025,886	6,955,253	8,421,576
		4 節 共済費	3,712,872	3,590,142	3,567,297	4,336,630
		7 節 賃金	4,916,762	4,044,743	4,683,956	6,564,130
		8 節 報償費	10,681	8,068	11,604	10,163
		9 節 旅費	31,390	17,144	23,209	29,891
		11 節 需用費	1,594,560	1,500,188	1,834,549	2,024,239
		12 節 役務費	166,939	165,367	191,473	222,391
		13 節 委託料	125,096	117,625	164,571	166,793
		14 節 使用料	729,644	606,128	341,275	386,793
		15 節 工事費			129,231	
		18 節 備品購入費	116,748	107,352	94,418	93,859
		19 節 負担金補助金	24,939	23,100	29,538	32,880
	支 出 合 計		38,043,319	33,552,047	33,663,824	40,578,641
	減価償却費		0	0	0	0
	市債利子		0	0	0	0
下田市負担年間総経費		32,101,239	26,826,605	25,795,516	31,772,663	
備 考		人件費は、実額を算出記載（正職員・嘱託職員等の人件費総額）				
12 施設利用状況等の推移	利用状況	利用年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
		利用者数(月平均)	39 人	42 人	48 人	55 人
		参考：利用単位当たり市負担額	823,108 円/人	638,728 円/人	537,406 円/人	577,684 円/人
	休園日	日曜日 祝日 12 月 29 日から 1 月 3 日まで				
	使用時間	午前 8 時から午後 4 時まで				
13 利用者満足度調査	実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		調査結果	アンケート実施	
	直近の実施時期	平成 20 年 6 月				
	調査手法	二一ズ調査				
	調査数					

平成 20 年度	施設名（愛称名）	下田市立大賀茂保育所	番号	5 5
----------	----------	------------	----	-----

## 業 績 評 価

### 1 目標達成度

目標達成度	区 分	単 位	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
	利用者数 の目標値	人	50	50	50	50
	” の実績	人	39	42	48	
	目標達成度	%	78	84	96	
選択した指標	成果指標					
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の代替指標					
指標選択の理由	目標達成度を選定する指標として同指標を選択した理由					
	子どもの発達援助、子育て支援、地域の住民や関係機関等との連携、管理運営等いくつか挙げられる。保育サービスの目標達成度については、別途評価基準等を作成し評価する必要がある。					
指標設定の考え方	区 分	指 標 名	指 標 の 考 え 方			
	成果指標					
	代替指標					

（参考）

活動指標（施設の目的を達成するための具体的な手段におけるそれぞれの達成度合を把握できる指標）

活動指標			区分	単位	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
活動指標	目標指標		目標値					
			実績値					
			達成度					
	目標指標の考え方							
活動指標	目標指標		目標値					
			実績値					
			達成度					
	目標指標の考え方							
活動指標	目標指標		目標値					
			実績値					
			達成度					
	目標指標の考え方							

平成 20 年度

施設名（愛称名） 下田市立大賀茂保育所

番号 5 5

## 2 効率性

効率性	区分	説明	単位	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
	施設の総利用者数等		人	39 人	42 人	48 人	55 人
	年間経費	施設の事業費・運営費および人件費の合計額	円	38,043,319	33,552,047	33,663,824	40,578,641
	利用単位当たり経費	÷	円/人	975,469	798,858	701,329	737,793
総利用者数等の考え方 施設の総利用総数等について用いた指標について記載してください。	延べ入所児童数	備考 コスト評価項目に関して留意事項、補足項目等があれば記載してください。		年間経費は、地域保育所総経費を各保育所の入所児童数で按分			

その他の指標		区分	単位	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
目標指数	目標指数 の考え方	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数	目標指数 の考え方	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数	目標指数 の考え方	目標値					
		実績値					
		達成度					

受益者負担の適正性	区分	説明	単位	H17 年度	H18 年度	H19 年度
	有料部分の年間経費	使用料等を徴収する部分の年間経費	円	38,043,319	33,52,047	33,663,824
	受益者負担額	施設の本来の目的による使用料等の年間総額	円	3,874,756	4,823,478	5,745,231
	受益者負担比率	÷	%	10.2	14.4	17.1
	補正受益者負担額	減免者より正規の料金を徴収したと仮定した場合の受益者負担額	円	3,874,756	4,823,478	5,745,231
	補正受益者負担比率	÷	%	-	-	-

平成 20 年度	施設名（愛称名）	下田市立大賀茂保育所	番号	5 5
----------	----------	------------	----	-----

## 施設の現状分析

判 断 視 点 項 目		施設の状況	
施設方向性の判断視点	施設の設置目的が時代のニーズに適合しているか	設置目的に沿った利用がされているか	児童福祉法第 39 条による保育の実施する認可保育所ではなくへき地保育所として位置付けられて、利用がされている。
		住民の福祉の向上に対し、どのように寄与しているか	随時、保育に欠ける児童を保育している。
		将来に亘り必要な施設として住民の期待を高めていけるか	地域に密着しており、平成 20 年 4 月 1 日現在では定員 50 人に対し、入所人員 55 人と地域の期待は非常に高い。（定員の弾力化措置により、ある程度の定員超過が可能（年度当初においては定員の概ね 15%、年度途中は概ね 25%まで））
	施設が十分に利用されているか	施設の修繕計画はどうなっているのか	市内保育所の再編成計画が不明確であり、具体的な修繕計画は策定されていない。
		施設の運営方法と利用者の情報交換はどのようにされてきたのか	各保育所において、定期的に保護者会等情報交換の場を設けている。
	施設の管理運営主体が施設の利用目的から判断して適切であるか	同様の施設の設置がされているなど競合していないか	市内に認可公立保育所 4 園、民間保育所 2 園、公立地域保育所 2 園が設置されている。
		民間においても十分可能な施設なのか	児童福祉法の改正により、市町村、社会福祉法人の他、NPO 法人や学校法人、企業等の参入が可能となった。 敷地は個人からの借地、建物の老朽化、給食施設は無い等現状から判断すると民営化は困難と考える。
	使用料、利用者数、支出額、市負担額が適正であるか	使用料の算定に当たり実費経費と住民福祉の向上の比較はどうか	保育料の額については、国の定めた平均徴収基準額を基に、給食費相当分を除いた一律 9,800 円を徴収している。
		同種施設との比較、近隣施設との比較はどうか	県内のへき地保育所は 4 園と少なく参考とならない。
		計画上の利用者数と実際の利用者数の違いがどうなっているのか	平成 19 年度の実績は、定員 50 人に対して入所者数 48 人、充足率 96.0%である。
		施設の耐用年数は何年有るのか	耐用年数 27 年 S 53 建設 3 年
		施設の今後の維持経費の算定はどうか	非耐震化・老朽化により大規模修繕を要する。

平成 20 年度

施設名（愛称名） 下田市立大賀茂保育所

番号 55

行政規模からの判断視点	施設の管理運営に係る経費が財政規模からして適正か	施設の管理運営の経費支出が下田市の行政経営からして妥当なのか	保育所運営費(民間保育所経費)と比較して、施設の管理運営経費は多いが、その主な理由は人件費である。
		現行の管理運営を今後も継続していくことが適切か	社会情勢に応じて保育サービスの見直しを図る。
	地域的な施設配置のバランスは適正か	旧町村単位における施設配置の見直しはされているのか	H17 年度よりへき地保育所が、補助制度の変更で交付金となり大幅な削減となった。定員 50 人に対し、入所人員 55 人(平成 20 年 4 月 1 日現在)と定員超過である一方、入所人員が定員に満たない保育所もあり、施設配置の見直しを要する。
		施設の統廃合が可能な施設はないのか	施設の統合の是非や組み合わせは今後の検討課題である。
その他	施設の統廃合が可能な施設はないのか	老朽化と施設維持の比較から改築廃止をどう考えていくのか	園舎は昭和 53 年に建てられたもので、耐用年数 27 年に対し、経過年数 30 年である。老朽化が進んでいるため、耐震補強は困難。改築・廃止について早急かつ慎重に検討する必要がある。
		地域、民間に譲渡できないのか	敷地が借地であること、また、施設自体の老朽化により譲渡は困難。
		施設の目的の範囲を拡大することにより統廃合可能にならないか	定員超過傾向にあり、保護者のニーズも高い。今後、現施設を耐震化し、活用していく。

平成 20 年度	施設名（愛称名）	下田市立大賀茂保育所	番号	5 5
----------	----------	------------	----	-----

## 見直しの方策

評価種別		改善・見直しの方策案
市民と行政の役割分担評価	行政関与の妥当性	保育所は、児童福祉法第 39 条により、日々保護者の委託を受けて、保育の実施する児童福祉施設であり、同法第 24 条により、市町村の保育の実施義務について定められている。
	受益者負担の妥当性	児童福祉法 56 条第 3 項において、保育の実施に要する保育費用を支弁した市町村の長は、本人またはその扶養義務者から、家計に与える影響を考慮して保育の実施のかかる児童の年齢などに応じて定める額を徴収することができる旨定められている。
	実施主体の妥当性	市に保育の実施義務があること、また、公共性の高いサービスであることから実施主体としては妥当である。
	廃止・休止・縮小・外部委託化・民営化などの方向性	公立保育所施設整備に対する整備費補助については、平成 17 年度より廃止された。当市の財政状況を考慮すると、公立保育所の新築は困難であるため、今後保育所を新設する場合は、民営化も検討する必要がある。
業績評価	利用者数等の目標数値及び利用者向上策など	多様な保育サービスの提供や質の向上により、利用者の利便性や満足度の向上に努める。
	執行方法の見直しなどの効率化のための目標及び方策	市内の保育所・幼稚園の統廃合を検討中ではあるが、時期等については未定。
	受益者負担の現状及び適正化のための方策など	保育料の設定については、国で定める平均徴収基準額を基に、給食費相当分を除いた一律 9,800 円で徴収 国の動向や、景気動向等を注視し、定期的な見直しを行う。
査等 アンケート調査	市民アンケート調査等の結果	平日延長保育、休日保育の実施について求められている。
サービス面等	サービスの迅速性や利便性など	
	利用者満足度の観点からのサービス提供の質の改善方法	平成 16 年度より、提供する福祉サービスの質の向上のため、全保育士を対象に自己評価を実施している。 今後は、第三者評価の受審についても検討が必要と思われる。

## 平成 19 年度事業内容及び見直し事項

事業内容	
見直し事項	



平成 20 年度

施設名（愛称名） 下田市立大賀茂保育所

番号 5 5

### 施設懸案事項

No.	懸案事項	改善経費	備考
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

### 今後の方向性

今後の方向性	充実	(具体的な内容)
	<input type="checkbox"/> 効率化等による見直し <input type="checkbox"/> 現状のまま継続等 <input type="checkbox"/> 縮小等による見直し <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合を進める	